学位報告１－１

別紙１－１

論文審査の結果の要旨および担当者

報告番号	※ 乙 第 号

氏　　名　齊藤調子

論　文　題　目

UNEXPECTED OVARIAN MALIGNANCY FOUND AFTER LAPAROSCOPIC SURGERY IN PATIENTS WITH ADNEXAL MASSES -A SINGLE INSTITUTIONAL EXPERIENCE-

（腹腔鏡術後に卵巣悪性疾患と判明した付属器腫瘍症例群に対する考察　-単一施設における経験-）

論文審査担当者　　名古屋大学教授

主　査　委　員　柳野正人

名古屋大学教授

委　員　小寺泰弘

名古屋大学教授

委　員　中村栄男

名古屋大学教授

指導教授　吉川史隆

論文審査の結果の要旨

付属器腫瘍に対する腹腔鏡手術は、その低侵襲性から近年標準的治療として確立されつつある。しかし、腹腔鏡手術は術中操作として腹腔内で腫瘍を穿刺するため、腫瘍が悪性疾患であった場合に病期を悪化させる危険が伴う。また、術前の MRI 画像や腫瘍マーカー値からでは悪性疾患か否かを確実に診断することは極めて困難である。

本研究では、単一施設内で行われた付属器腫瘍に対する腹腔鏡手術症例群に関してその特徴や組織型を検討し、特に術後に卵巣悪性疾患と判明した 10 症例についてその予後等を検討した。

本研究の新知見と意義は要約すると以下のとおりである。

1．腹腔鏡手術後に悪性と判明した卵巣腫瘍 10 症例において、本研究の経過観察中に再発徴候を示したものはなかった。

2．卵巣悪性疾患において腫瘍の術中破綻は予後悪化の因子とされているが、この 10 症例において追加手術を行った 6 症例は病期の悪化を認めなかった。

3．残りの 4 例では病期が確定されなかったため、厳重な経過観察を必要とすると考えられた。

4．早期卵巣悪性疾患に対する保存的治療は正確な病気診断が重要であるが、その上で安全に施行し得る術式であると考えられた。

本研究は、付属器腫瘍に対する腹腔鏡手術の安全な適用に関して、重要な知見を提供した。

以上の理由により、本研究は博士（医学）の学位を授与するに相応しい価値を有するものと評価した。

別紙２

試験の結果の要旨および担当者

報告番号	※乙第　　号	氏　名　　齊　藤　調　子
試験担当者	主　査　郡野 [illegible]　小寺泰弘　中川幸洋 指導教授　吉川史隆	

（試験の結果の要旨）

主論文についてその内容を詳細に検討し、次の問題について試験を実施した。

1. 卵巣腫瘍において悪性と術前診断することが困難な組織型について
2. 卵巣悪性腫瘍に対する腹腔鏡手術の術操作における改善すべき点
3. 腹腔鏡による低侵襲手術の現状と展望

以上の試験の結果、本人は深い学識と判断力ならびに考察力を有するとともに、産婦人科学一般における知識も十分具備していることを認め、学位審査委員合議の上、合格と判断した。

別紙３

学力審査の結果の要旨および担当者

報告番号	※乙第　　号	氏　名　　齊　藤　調　子
学　力　審　査 担　　当　　者	主　査　柳野正人　小寺泰弘　中川勝弘 指導教授　吉川史隆	

（学力審査の結果の要旨）

名古屋大学学位規程第１０条第３項に基づく学力審査を実施した結果、大学院医学系研究科博士課程を修了したものと同等以上の学力を有するものと学位審査委員合議の上判定した。